登録医療機関御中

中国労災病院
Chugoku Rosai Hospital

地域医療連携News

第186号
令和6年1月

平素より中国労災病院が大変お世話になり、誠にありがとうございます。
地域医療連携News第186号を発行致しました。今後とも連携の程よろしくお願い申し上げます。

中国労災病院理念

働く人と地域の人のために患者中心の良質な医療を提供します。

中国労災病院の基本方針

○個人の尊厳と権利を尊重し、高度で安全な医療を推進します。
○地域の医療機関と連携し、救急・急性期から慢性期までの一貫した医療を実践します。
○最新の医学に基づいた専門的な医療を実践します。
○働く人の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
○周産期医療を充実させ、未来を担う子供たちを支援します。
○優れた人材を育て、働きがいのある職場づくりを推進します。

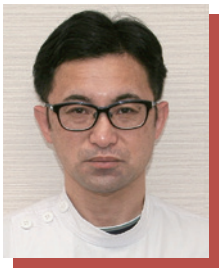
初期臨床研修の理念

当院の初期臨床研修の理念は、崇高な信念と人格をもち、基本的な診療能力及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身に付けた自立した医師を育成することです。

初期臨床研修の方針

①患者中心の思考・行動をする姿勢を持つこと。
②救急医療やプライマリケアなどの診療能力を修得すること。
③他の医療スタッフと協調し、安全で質の高いチーム医療を提供すること。
④地域のかかりつけ医と連携し地域完結型の医療を学ぶ。
⑤症例を通じて、診断・治療の結果だけではなく、プロセスを学ぶ。

1. 薬剤関連顎骨壊死（MRONJ：Medication-related osteonecrosis of the jaw）について



小林 雅史
歯科口腔外科部長

2023年、薬剤関連顎骨壊死（MRONJ：Medication-related osteonecrosis of the jaw）について「薬剤関連顎骨壊死の病態と管理：顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023（PP2023）」が発表されました。ご存じの先生方も多いと思いますが、主な変更点とポイントを案内させてもらいます。

PP2016では顎骨壊死の呼称はビスフォネート(BP)製剤とデノスマブ製剤を合わせた骨吸収抑制薬ARAからARONJとされていましたが、その他の原因薬剤によるONJも報告され、PP2023ではMRONJとなりました。

MRONJの発症リスク因子について；顎骨だけに生じる理由

顎骨における他の骨と異なる解剖学的特徴として歯の存在が挙げられます。歯は上皮を貫通して顎骨に植立しているため、歯に関連する感染源は、顎骨と歯の間隙、あるいは歯髄が存在する根管を経由して顎骨内に直接到達します。
ARAを使用している患者の骨代謝が変化した顎骨に細菌感染が暴露することにより、顎骨骨髄炎を経

て MRONJ が発症すると考えられます。

ARAを使用している患者に発症した上顎のMRONJ

MRONJの発生頻度

呉市の調査では、ARA未使用の患者におけるONJの一年間の発症率は10万人あたり5.1人であったのに対し低用量BP使用患者では10万人あたり135.5人であり、高用量使用患者では、10万人あたり1,609.2人でした。(Osteoporosis Int. 34:1101-1109,2023)。このデータはPP2023に掲載されており、今後本邦の標準的な発症率になると考えられます。

抜歯時の予防的休薬

「原則として**休薬しない**ことを提案する」

一般論として、手術部位の汚染度を考慮した抗菌薬の適正使用が望まれます。

歯科への患者紹介

ARAを開始するにあたり、MRONJ 予防について考慮しなければならず、原則として**骨粗鬆症治療を開始する患者は全例が歯科スクリーニングの対象**となります。

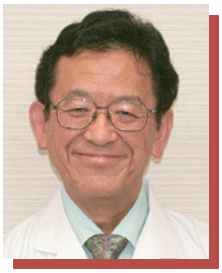
骨粗鬆症治療の必要性や緊急性などについても言及した診療情報提供書を処方医が作成し、歯科へ患者をご紹介していただきたいと思います。

薬剤関連顎骨壊死の病態と管理：顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023
https://www.jsoms.or.jp/medical/pdf/work/guideline_202307.pdf

2. 院長新年挨拶

地域連携施設の皆様、明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年(2023年)5月8日に、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ感染症）は感染症法上、2類相当から5類に移行されました。しかし、感染が治まったわけではなく、ウイルスの弱毒化はあるものの強い感染力のため、多くの感染者が出て対応を続けてきました。また、この数年間極端に減っていたインフルエンザ感染が昨年から猛威を振るい、中にはコロナ感染とインフルエンザの同時感染も経験しました。しかし何とか普段の日常生活を取り戻し、円安の影響もあってかコロナ前を越える勢いで海外からの観光客が来日することとなりました。



中国労災病院　院長
栗栖 薫

一方で、人類として最も愚かな行動の一つである戦争が収まるどころか、新たな地域で勃発し、こちらもいつ終戦を迎えるのか2023年末の段階では

わかっていません。2023年を表す漢字として一般では、税、が取り上げられました。医師専用のサイトでの投稿では、1番が戦、2番が税、3番が争、でした。「戦」や「争」に込められている思いは、勿論ロシアのウクライナ侵攻による戦争、ハマスとイスラエルとの戦争がありますが、3年以上にも及ぶコロナ感染との戦いの意味もありました。また、いい意味での「戦」はWBCにおける全日本チームの見事な戦いぶりを示しており、大いに国民の心を揺さぶったものとなりました。

当院は、昨年は評価の年でもありました。5年に一度の病院機能評価を7月に受審しました。ほぼ1年をかけ全職員が関係する部門や領域において必要な書類や資料を準備し、また面接や現場視察における対応などシミュレーションを行い、新しい評価基準での受審となりました。その結果は概ね好評価でしたが一部の指摘があり、改善策を提示し最終判断を待っているところです。9月には、(独)労働者健康安全機構の監事往査にて当院の運営・経営状況の評価を頂き、10月には一昨年に受審して資格を得た卒後臨床研修評価機構(JCEP)の中間評価が行われ、正式にその資格が計4年間(2025年9月末まで)認められました。11月には中四国厚生局による施設基準等に関わる適時調査を受けました。コロナ禍で書類審査が主体であった昨年までの3年間に比べ、いわゆる現地調査が主体になった年でもありました。また、昨年は4年ぶりに地域連携施設懇話会を開催し直接的にあるいは間接的に皆様方からご意見を頂きました。このように我々は、国民の皆さんに安定的に高い医療の質を担保しながら対応できるよう、医療のプロフェッショナルの自覚を持って評価受審と改善に取り組んでいます。

臨床面でも大きな進歩の年でもありました。高度専門的医療の一環である、内視鏡検査・治療センターにおいて、大腸の内視鏡検査が紹介を受けたその日に可能となりました。また、2022年10月から始まった内視鏡手術支援ロボットhinotori™使用による手術が、まず前立腺癌に対する前立腺摘除術から開始されました。順調に進み、より精緻で安全な手術が確実に行える体制と実績を生み出しました。また、昨年10月から直腸癌のロボット手術も開始となり、大腸全体の手術はhinotori™で行うところまで進んできました。呉圏域におけるロボット手術の先駆けとなり、広島や福山まで行って行かなくてもその恩恵を地域の皆様が受けることができるようになりました。

hinotori写真

救急医療においてもコロナ禍でヒトの移動が制限され交通事故などによる高エネルギー外傷が減少していましたが、家庭や施設で転倒することにより骨折の患者さんが多く発生しました。その結果、多くの骨折患者さんを診療させて頂いています。また、動かないことにより高血圧の管理が難しくなり高血圧による心不全の患者さんも増加しました。そのような患者さんを乗せて救急車が、平均で一日あたり約10台来ますが、その応需率(救急車で来

院された患者さんを受け入れて診療する率）は90％を超え、呉医療圏のみならず全国的にみても非常に高い水準を維持しています。「断らない救急受け入れ」を目指し、職員が夫々の職務において協力し対応しています。

周産期医療に関係して新しい臨床研究が始まりました。痩せ思考が強い最近の女性から低体重で産まれてくる新生児が多く、G7の中でも出生時体重は日本が最も低いというデータがあります。そこで、広島大学医学部の公衆衛生学と共同で、「勤労女性の妊娠時の食・生活習慣に関する時間栄養学的研究」を始めました。研究代表者は当院副院長・産婦人科主任部長の藤原久也先生です。基本は時間栄養学という新しい捉え方に基づくものです。妊婦さんの栄養状態がよくなって元気で丈夫な赤ちゃんが生まれることが楽しみです。

当院は労働者健康安全機構の病院ですので、まずは働く人のために、ということが大きな観点になります。勤労者が働きながらきちんと治療が継続出来て、元の仕事に復帰できることを目指しています。これを両立支援（仕事と治療の両立という意味です）と呼んでいます。これも入院患者さんで職に就かれている方々、お一人お一人に支援の件を説明し、医療ソーシャルワーカー(MSW)が中心となって支援していきます。加えて広島県に2名しかいない母性看護専門看護師による育児外来を行い、妊娠・分娩・育児と仕事の両立を支援しています。当院としても労災病院という立場から子育て支援を行い、妊娠・出産による離職率の軽減に寄与しております。

コロナ禍で色々な制限がありましたが、コロナ禍であっても進めなければならないこと、コロナ禍だからこそできることをこの数年実践して参りました。とびしま四島を含む呉市東部、東広島市南部（黒瀬町、安芸津町）、竹原市、大崎上島の住民の方々（背景人口は約15万人）において、地元の皆さんに信用される中核病院としての使命を職員一人一人が自覚し、対応を心掛けています。本年こそ、平和で落ち着いた1年を過ごせますように祈念致しまして、年頭のご挨拶にさせて頂きます。

繰り返しになりますが、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 2024年 石川県能登半島地震におけるDMAT活動報告

2024年1月1日(月)、石川県能登半島地震発生を受け、厚生労働省DMAT事務局から災害派遣医療チーム（DMAT）　の要請がありました。当院は、1月24日(水)～28日(日)にDMAT 1チーム（医師1名、看護師2名、業務調整員1名）を派遣しました。

出発式

被災地への道中は、被災による道路状況の不良や警報級の降雪による道路の通行止めなどのトラブルがありましたが、予定通りに調整本部の能登町役場へ到着しました。

能登町役場本部では、DMAT5隊26名、ロジスティックチーム5名、日赤救護班15名、JMAT2隊、DPAT1隊、DWAT1隊などの各機関と連携を図っており、本部到着後、当院も直ぐに加わり被災地の現状等の情報共有をいただいた後に活動開始しました。

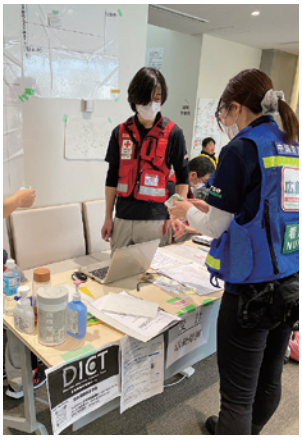
能登町の医療関連施設は、診療所7施設中6施設、薬局は9施設中7施設が稼働しており、病院は2施設のうち1施設はすでに病院避難を完了しており、入院患者さんは残院しておらず、もう一つの病院は入院患者さんが残院している状態でした。

当院の隊員4名は各2名ずつの2隊に分隊し、1隊は能登町役場にて情報ツールへの情報入力や他の隊との打ち合わせ、到着する各隊へミッションの割り振り、活動期間の管理などの本部活動を行い、もう1隊は入院患者さんが残院している病院へ赴き、病院職員さんと連携しながら、病院の現状と課題の分析、来院する患者情報、感染患者の状況チェックなどの病院支援活動を行いました。

今回、当院のDMAT隊が出動した時期は、病院支援も非常時から通常時への移行期にあたる時期であったため、主に事務的な役割が多く、被災された現場や避難所で生活している方々に直接接することはありませんでした。

DMATチームが帰院した翌日の29日(月)から2月6日(火)まで、ロジスティック隊員が単独で輪島市役所内に設立した調整本部にて活動を行っており、微力ではございますが少しでも被災者の方々のお役に立てるように引き続き活動を行っております。

本部活動



本部活動

病院支援活動

支援活動を行った宇出津総合病院

公立宇出津総合病院(足元段差発生、天井崩落)

今回の地震による災害は陸路、海路ともに大きな被害を受けて遮断されていることに加え、天候不順により空路も遮断され、人的支援や物資の投入などが困難を極めており、被災された方々は大変な苦痛、心労をお持ちであると思います。

当院は、今後も医療者として被災者の方々に可能な限り支援ができるよう努力して参ります。

4. 研修会、オープンカンファレンスのご案内（会場：当院8階多目的ホール）

いずれもWEB参加（ZOOM）も可能です。WEB参加ご希望の方は、下記より事前登録をお願いします。（URL：https://www.chugokuh.johas.go.jp/news/kenshuevents）会場参加の方は事前申し込み不要です。皆様の御参加をお待ちしております。

●2月14日（水）　17:30～18:30

第41がんオープンカンファレンス　「免疫関連有害事象（irAE）のマネジメント」

●2月22日（木）　18:30～20:00

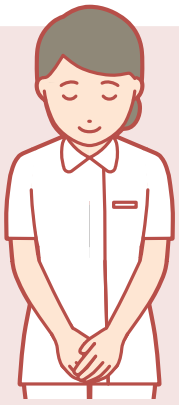
第12回心臓イキイキキャラバン講習会

●3月12日（火）　18:00～19:15

第74回消化器オープンカンファレンス

ロボット支援（hinotori）が大腸・直腸にも展開していますので、外科　向井正一朗先生にその紹介をしていただきます。また、広島大学の中原隆志先生に最新の脂肪肝の診療について講演していただく予定です。

5. 連携室より新年のご挨拶



新年明けましておめでとうございます。本年も皆様の御要望に迅速にお応えできるよう努めてまいります。

引き続き地域医療連携室をよろしくお願いいたします。

地域医療連携ニューズ第186号

〒737-0193 広島県呉市広多賀谷1-5-1Tel.0823-74-0321Fax.0823-74-6260

中国労災病院 患者サポートセンター https://www.chugokuh.johas.go.jp/regionalPartner/

発行日：令和6年1月31日